毎年おいしいお米を作って、
食べてくれる方に喜んでほしいです。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ



両親が農業を営んでいたため、幼いころから自然と農作業を手伝う機会が多く、高校卒業後はすぐに就農するつもりでした。しかし、高校時代に出場した柔道の大会でスカウトされたことをきっかけに、卒業後は相撲界に進むことになりました。

相撲界では横綱の付き人などを務め、全国を巡りながら人間関係の築き方を学びました。ここで得た多くの人との繋がりは、今でも大きな財産となっています。元々「いつかは農業を継ごう」と考えていたこともあり、相撲界に入って約9年が経った27歳の時、実家に帰省したタイミングで今後の人生について両親と話し合いました。

当時、実家では米の作付面積が広がるにつれて作業の負担が増し、両親が苦労している姿を帰省のたびに目にしていました。その姿を見て「今が引き時だ」と決意し、翌年1月に引退。27歳で農業の道に進むことを決めました。

2 就農当時のこと

幼い頃から両親の農作業を手伝っていたため、基本的な作業についての知識や理解はありました。しかし、機械の操作は未経験だったため、最初は扱いにとても苦労しました。

困ったときは父をはじめ、近隣の先輩農家の方々や青年部の仲間に何度も助けてもらいました。そうして教えていただくうちに徐々にコツを掴むことができ、初めて機械を上手く操縦できたときは、大きな達成感と嬉しさでいっぱいになりました。

3 青年部活動について

近隣の先輩から誘ってもらったことをきっかけに、就農からほどなくして青年部へ加入しました。青年部に加入したことで、普段は接点のない地域の人たちとの関わりが増え、さまざまな情報を共有できるようになったことは大きな助けになりました。何でも気軽に相談できる仲間ができ、多くの困難を共に乗り越える大切さを感じながら、日々充実感を持って農業に向き合えています。

今後も情熱直送便や研修会、部員親睦会など、様々な青年部活動へ積極的に参加しながら盟友との交友関係を深め、営農技術の研鑽に務めていきたいです。

4 仕事をするうえで大切にしていること



どんな作業を行うときも、焦らず安全第一で丁寧に取り組むことを心掛けています。日々作物と向き合うのはもちろん、父や近隣の農家さん、青年部の仲間とこまめにコミュニケーションを取り、常に新しい情報を取り入れながら「おいしいお米を作るための最善策」を模索しています。

農業は毎年天気に左右されますが、特に近年は異常気象の影響により、どの時期にどのような作業を行うべきかを見極めることが大変難しくなっています。営農をしていると大変な場面も多いですが、収穫を終え、納得のいくおいしいお米に仕上がった時の達成感は格別です。

現在は、相撲界にいた頃のご縁で毎年お米を購入してくださるお客さんもいます。これからも全国の消費者の方に「おいしい」と言って喜んでもらえるように頑張っていきたいです。

人物 memo

岩見沢市上志文町
山田（やまだ） 祐樹（ゆうき） さん（32歳）

父の辰弘さん、母の弘美さんの家族3人で約15haの農地に水稲を栽培。高校卒業後は相撲界に入り、横綱の付き人などを経験。作付面積の増加に伴い両親の農作業の負担が増えたことを機に、約9年間過ごした相撲界を引退。27歳で農業の道へ進みました。

現在は青年部岩見沢支部志文連合班の班長を務め、充実した生活を送っています。